

和名：バナナネモグリセンチュウ
学名：*Radopholus similis* (Cobb)
英名：banana burrowing nematode

分布

インド、東南アジア、ヨーロッパ、
アフリカ、北米、中南米、ハワイ諸島、
オーストラリア等

寄主植物

バナナ、アンズリューム属、コショウ属、フィ
ロデンドロン属、アボカド、オクラ、サトウキビ、ショウガ、トウモロコシ、
ラッカセイ等の生植物の地下部

形態

本種はカンキツネモグリセンチュウと酷似しており、形態ではほとんど区別が
つかない。両種の識別は主として、カンキツ類への寄生性の有無及び染色体数
の違いによって行われる。

生態

根の組織内部を移動しながら加害する内部寄生性線虫である。各令期の幼虫及
び雌雄成虫全てが組織内に侵入可能であり、根への侵入・加害と土壤中への脱
出を繰り返している。通常は、根の先端からわずかに上方の部分から侵入する。
1世代にかかる日数は、25℃で約21日である。雌は2週間にわたって毎日平均
して4~5個の卵を産むことが報告されている。通常は両性生殖で増殖するが、
時に単為生殖も行う。

被害

本種はバナナの生産地域では、バナナの根頭黒腐病を引き起こす線虫として知
られている。一次及び二次根又は細根から侵入し、侵入部位には褐色ないし黒
色の条斑ができ、次第に拡大して縦列孔となる。侵入部位を中心として皮層組
織は崩壊し、根系全体の発達が著しく悪化する。根の加害部位からは、二次的
に病原菌が侵入して混合感染を起こし、被害を助長させる。



図 バナナネモグリセンチュウの
ショウガ被害症状